

# 米国農務省穀物等需給報告(2024年4月11日発表のポイント)

令和6年4月12日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、4月11日(現地時間)、2023/24年度の12回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。  
-2023/24年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量:28億802万トン(対前年度比 2.1%増)↓
- ② 消費量:28億1,433万トン(対前年度比 1.9%増)↓
- ③ 期末在庫量:7億7,499万トン(対前年度比 0.8%減)↑  
期末在庫率:27.5%(対前年度差 0.7ポイント減)↑

### 【主な品目別の動向】

**小麦** :世界の生産量は、EU等での単収の引上げなどを受け前月から上方修正されたものの、前年度より減少する見通し。世界の消費量は、インドやEU等での飼料等需要の引上げなどを受け前月より上方修正され、前年度より増加する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。ウクライナの輸出量は前月から上方修正された。

- 1 生産量:7億8,736万トン(対前年度比 0.3%減)↑…インド、米国、アルゼンチン等で増加、豪州、カザフスタン、ブラジル、カナダ等で減少
- 2 消費量:8億10万トン(対前年度比 1.1%増)↑…中国、インド、EU等で増加
- 3 期末在庫量:2億5,827万トン(対前年度比 4.7%減)↓…米国等で増加、中国、インド、ロシア等で減少  
(前月に比べインドで下方修正)  
期末在庫率:32.3%(対前年度差 2.0ポイント減)↓

**とうもろこし** :世界の生産量は、南アフリカ及びアルゼンチン等での単収の引下げなどを受け前月から下方修正されたものの、史上最高となる見通し。世界の消費量は、アルゼンチン等での飼料等需要の引下げなどを受け前月より下方修正されたものの、前年度より増加する見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:12億2,786万トン(対前年度比 6.1%増)↓…米国、アルゼンチン、中国、EU、ウクライナ等で増加、ブラジル、メキシコ、南アフリカ等で減少
- 2 消費量:12億1,177万トン(対前年度比 3.9%増)↓…米国、中国、EU、エジプト、ブラジル等で増加
- 3 期末在庫量:3億1,828万トン(対前年度比 5.3%増)↓…米国、中国等で増加、ブラジル、メキシコ等で減少  
期末在庫率:26.3%(対前年度差 0.4ポイント増)↓

**コメ(精米)** :世界の生産量は、フィリピン及びバングラデシュ等での単収の引上げなどを受け前月より上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国での大幅な引下げなどを受け前月より下方修正されたものの、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- 1 生産量:5億1,553万トン(対前年度比 0.2%増)↑
- 2 消費量:5億2,135万トン(対前年度比 0.3%増)↓…インド等で増加、中国等で減少
- 3 期末在庫量:1億7,215万トン(対前年度比 3.3%減)↑…中国等で減少  
期末在庫率:33.0%(対前年度差 1.2ポイント減)↑

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、南アフリカでの単収の引下げなどを受け前月から下方修正されたものの、史上最高となる見通し。世界の消費量は、アルゼンチン、中国、米国等で増加することから前年度より増加し、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量:3億9,673万トン(対前年度比 4.9%増)↓…アルゼンチン等で増加、ブラジル、米国等で減少
- 2 消費量:3億8,108万トン(対前年度比 4.2%増)↓…アルゼンチン、中国、米国等で増加
- 3 期末在庫量:1億1,422万トン(対前年度比 12.7%増)↓…アルゼンチン、中国、米国等で増加、ブラジル等で減少  
期末在庫率:30.0%(対前年度差 2.3ポイント増)↑

## 世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2024年4月11日発表)

### 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (予想)	2023/24		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		2,794.18	2,749.83	2,808.02	2.1%	▲ 1.5	2,295.1
消費量		2,794.83	2,762.90	2,814.33	1.9%	▲ 0.1	2,284.0
期末在庫量		794.38	781.31	774.99	▲ 0.8%	0.3	479.9
期末在庫率		28.4%	28.3%	27.5%	▲ 0.7	0.01	21.0%
<b>小麦</b>							
生産量		780.35	789.34	787.36	▲ 0.3%	0.7	660.8
消費量		791.34	791.02	800.10	1.1%	1.1	680.3
期末在庫量		272.69	271.00	258.27	▲ 4.7%	▲ 0.6	180.6
期末在庫率		34.5%	34.3%	32.3%	▲ 2.0	▲ 0.1	26.5%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		1,500.73	1,446.07	1,505.13	4.1%	▲ 2.3	1,158.2
消費量		1,485.87	1,452.24	1,492.89	2.8%	0.3	1,138.8
期末在庫量		338.50	332.34	344.58	3.7%	▲ 1.6	175.3
期末在庫率		22.8%	22.9%	23.1%	0.2	▲ 0.1	15.4%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		1,216.13	1,157.74	1,227.86	6.1%	▲ 2.4	898.8
消費量		1,198.29	1,166.34	1,211.77	3.9%	▲ 0.5	877.4
期末在庫量		310.79	302.19	318.28	5.3%	▲ 1.4	144.7
期末在庫率		25.9%	25.9%	26.3%	0.4	▲ 0.1	16.5%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		513.10	514.42	515.53	0.2%	0.1	476.1
消費量		517.63	519.64	521.35	0.3%	▲ 1.5	464.9
期末在庫量		183.19	177.97	172.15	▲ 3.3%	2.5	124.0
期末在庫率		35.4%	34.2%	33.0%	▲ 1.2	0.6	26.7%

### 【大豆】

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (予想)	2023/24		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		360.45	378.20	396.73	4.9%	▲ 0.1	269.0
消費量		366.03	365.76	381.08	4.2%	▲ 0.8	265.4
期末在庫量		93.09	101.31	114.22	12.7%	▲ 0.1	58.3
期末在庫率		25.4%	27.7%	30.0%	2.3	0.1	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 11, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向  
(米国農務省2024年4月11日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (予想)	2023/24		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		447.17	406.43	459.13	13.0%	-	353.0
消費量		360.06	350.03	361.55	3.3%	0.3	317.1
輸出货量		94.82	67.73	81.90	20.9%	0.1	51.6
期末在庫量		57.09	53.60	77.01	43.7%	▲ 0.6	44.2
期末在庫率		12.6%	12.8%	17.4%	4.5	▲ 0.1	12.0%
<b>小麦</b>							
生産量		44.80	44.90	49.31	9.8%	-	61.3
消費量		30.41	30.42	30.32	▲ 0.3%	▲ 0.8	37.8
輸出货量		21.66	20.65	19.32	▲ 6.4%	-	27.5
期末在庫量		18.36	15.50	18.98	22.5%	0.7	19.5
期末在庫率		35.3%	30.4%	38.2%	7.9	2.0	29.9%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		396.30	356.45	402.89	13.0%	-	285.3
消費量		324.91	315.00	326.25	3.6%	1.3	275.5
輸出货量		70.52	45.04	59.69	32.5%	-	20.7
期末在庫量		37.48	37.14	56.64	52.5%	▲ 1.3	23.5
期末在庫率		9.5%	10.3%	14.7%	4.4	▲ 0.4	7.9%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		381.47	346.74	389.69	12.4%	-	273.2
消費量		315.67	305.95	317.64	3.8%	1.3	263.0
輸出货量		62.80	42.20	53.34	26.4%	-	18.5
期末在庫量		34.98	34.55	53.90	56.0%	▲ 1.3	20.9
期末在庫率		9.2%	9.9%	14.5%	4.6	▲ 0.4	7.4%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		6.07	5.08	6.93	36.4%	-	6.3
消費量		4.74	4.61	4.99	8.2%	▲ 0.2	3.8
輸出货量		2.65	2.04	2.89	41.7%	0.1	3.4
期末在庫量		1.26	0.96	1.38	43.8%	0.1	1.2
期末在庫率		17.1%	14.4%	17.5%	3.1	0.9	16.1%

【大豆】

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (予想)	2023/24		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		121.50	116.22	113.34	▲ 2.5%	-	82.8
消費量		62.89	62.96	65.69	4.3%	▲ 0.3	48.6
輸出货量		58.57	54.21	46.27	▲ 14.6%	▲ 0.5	36.1
期末在庫量		7.47	7.19	9.26	28.8%	0.7	3.8
期末在庫率		6.2%	6.1%	8.3%	2.1	0.7	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 11, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

## 世界の穀物等の価格動向 (2024年)

● 小麦 : 5.67 ドル/bu (前年同時期の価格 : 6.76 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における2024年4月第1週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日))

1月に入り、上旬までは中国からの需要期待も、米国中西部の冬小麦地帯での降雨や降雪を受け、6ドル/bu台前後で上下し、米国農務省需給報告で米国産の在庫量が上方修正されたことや低調な輸出需要から5ドル/buに値を下げた。その後安値による買戻しから6ドル/bu台前半に値をあげたものの、低調な輸出需要等から値を下げ、1月末現在、5ドル/bu台後半で推移。

2月に入り、ロシア産との競合やドル高も、安値による買戻しから5ドル/bu台後半から6ドル/bu前後で推移。2月半ばには、米国アウトルックフォーラムで2024/25年度の米国産期末在庫量が予想を上回ったこと等を受け一時5ドル/bu台半ばに値を下げたものの、安値感から買い戻され、2月末現在、5ドル/bu台後半で推移。

3月に入り、黒海地域からの潤沢な供給と米国産に対する低調な需要から5ドル/bu台前半まで値を下げた。その後、ロシアによるウクライナの港への攻撃で黒海の情勢が緊迫化したこと等により値を上げ、3月末現在、5ドル/bu台半ばで推移。



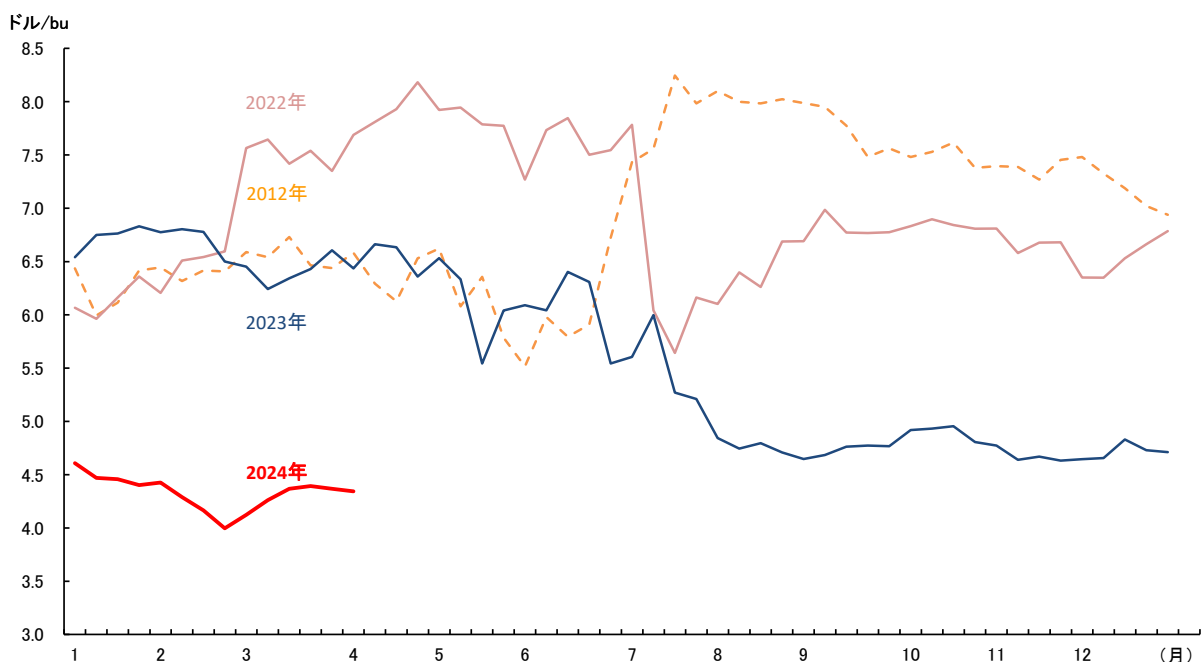
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

- とうもろこし：4.34 ドル/bu （前年同時期の価格：6.44 ドル/bu）  
 【価格は、シカゴ商品取引所における2024年4月第1週末のセツルメント価格】  
 （史上最高値：8.31 ドル/bu(2012年8月21日)）

1月に入り、南米の降雨予想や米国の低調な週間輸出成約高から4ドル/bu 台半ばまで下落。その後、米国農務省需給報告に向けたポジション調整等や、1月の米国農務省需給報告において米国産の生産量の上方修正やアルゼンチンの増産見通しから4ドル/bu 台半ばで上下し、1月末現在、4ドル/bu 台半ばで推移。

2月に入り、米国農務省需給報告及び米国アウトックフォーラムで米国産期末在庫量が市場予想を上回ったこと、南米の生産見通しの改善から4ドル/bu 割れまで値を下げたものの、米国産の週間輸出検証高が予想を上回ったことや安値感からの買戻しにより値を上げ、2月末現在、4ドル/bu 台前半で推移。

3月に入り、米国産の堅調な輸出やアルゼンチンの降雨過多等による作柄懸念を受け4ドル/bu 台半ばまで値を上げた。その後、一時4ドル/bu 台前半に値を下げたものの、米国農務省が発表した作付意向面積報告が市場の事前予想を下回ったため値を上げ、3月末現在、4ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

●コメ：592 ドル/トン（前年同時期の価格：520 ドル/トン）

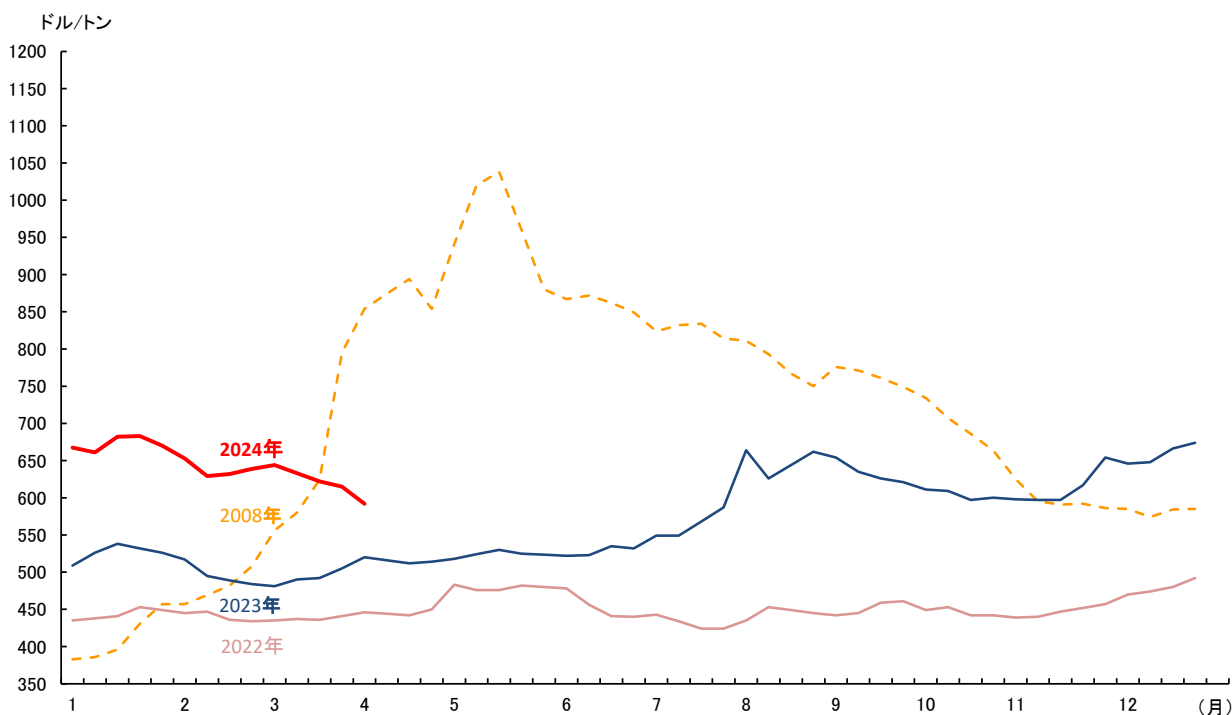
【価格は、タイ国家貿易取引委員会における2024年4月第1水曜日のFOB価格】

（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008年5月21日)）

1月に入り、年始の休場等による低調な需要から一時660ドル/トン台前半まで値を下げたものの、インドネシアの追加輸入や旧正月（2月上旬）、ラマダーン（断食月）（3月10日－4月8日）などを控えたASEAN諸国からの需要増加等から値を上げ、一時680ドル/トン台前半まで上昇。しかし、輸送コストの上昇による需要の軟化等から値を下げ、1月下旬現在、670ドル/トン台前後で推移。

2月に入り、旧正月（2月上旬）でアジアの市場が停滞したことや、2月上旬のインドネシア政府の入札が成立しなかったことのほか、2月末から3月初めの乾季米の入荷待ちによる需要の軟化等から一時的に620ドル/トン台に値を下げたものの、インドネシア政府が4月までに30万トンの輸入を行うと公表したことから値を上げ、2月下旬現在、630ドル/トン台後半で推移。

3月に入り、乾季米の市場への流入が続く中、インドネシア政府の入札が4日に成立したこと（タイ及びパキスタンから約30万トン）や、3月末にインドネシア政府が再び入札を行う可能性があるとの市場の予測等から値を上げ、一時640ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、新穀（乾季米）の市場への流入継続等から値を下げ、3月下旬現在、610ドル/トン台半ばで推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)  
グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年と直近3年の価格推移。



● 大 豆 : 11.85 ドル/bu (前年同時期の価格 : 14.93 ドル/bu)

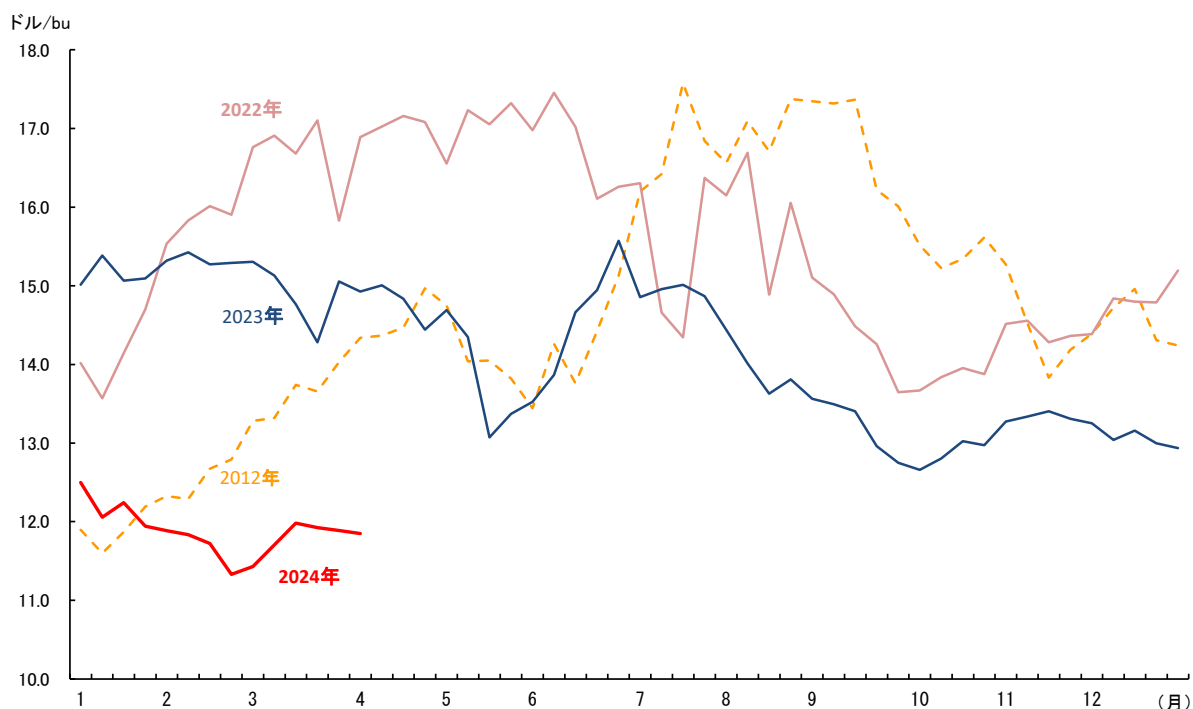
【価格は、シカゴ商品取引所における2024年4月第1週末のセトルメント価格】

(史上最高値 : 17.71 ドル/bu(2012年9月4日))

1月に入り、ブラジルでの降雨等を受け12ドル/bu台前半までに値を下げた。その後、原油高に連動する形で12ドル/bu台半ばに値を上げたものの、1月の米国農務省需給報告で米国産の生産量が上方修正されたことや、アルゼンチンの増産見通し、ブラジルの降雨等から値を下げ、1月末現在、12ドル/bu台前半で推移。

2月に入り、米国の週間輸出成約高や南米の高温乾燥や降雨予報を受け、11ドル/bu台後半から12ドル/bu前後で推移。その後、米国アウトLOOKフォーラムで米国産の生産量、期末在庫量が市場予想を上回ったことや、南米産の収穫の進展及び生産見通しの改善から値を下げ、2月末現在、11ドル/bu台前半で推移。

3月に入り、米国産の堅調な輸出需要やブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から12ドル/bu台前半まで値を上げた。その後、米国農務省が発表した作付意向面積や四半期在庫が前年より増加したことから値を下げ、3月末現在、11ドル/bu台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セトルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

### 1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
108.99	106.78	109.08	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93	130.20	132.68	133.85	133.33	137.37	141.19	141.21
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
144.77	147.67	149.53	149.83	144.07	146.57	149.42	149.63			

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

### 2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
45.01	52.79	65.79	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51	45.62	42.50	48.46	52.10	46.37	43.25	42.73
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
49.49	52.48	51.30	52.75	56.27	51.39	50.39	54.74			

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC  
Grain Market Indicators」  
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

### 3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
57.03	39.40	74.66	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.52	78.16	76.86	73.37	79.50	71.62	70.27	76.03
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
81.32	89.43	85.47	77.38	72.12	73.86	76.61	81.28			

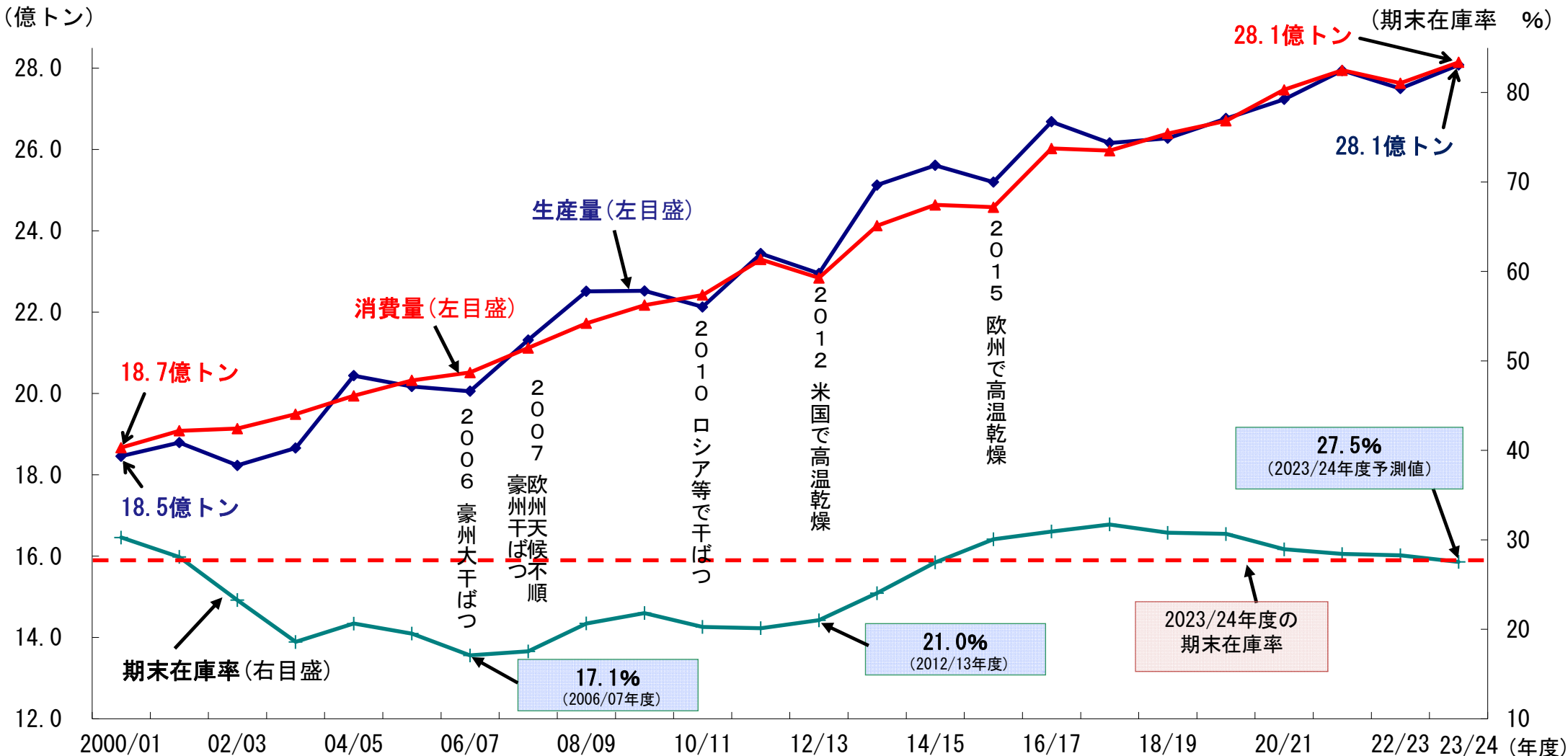
出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ-月次アップデート-」令和6年3月, 124頁  
但し、2024年3月 は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum  
Status Report」の日次データの平均値。



# 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2023/24年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2023/24年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.5%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

## □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 2024)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。